



GABRIEL-TECH



私たちの暮らしとEMF環境

健やかで快適な毎日のために







EMF:

暮らしを取り巻く見えない環境要因

ドイツで開発された Gabriel Technology は、現代の住まいや職場に存在する電磁場、いわゆる EMF による干渉*を、専門的な測定と分析に基づいて低減することを目的とした技術です。住まいや職場など、それぞれの環境によって EMF 干渉の状態は異なります。Gabriel Technology は、その状態を把握し、環境に合った方法で、よりバランスの取れた EMF 環境づくりをサポートします。スマートフォンや家電製品など、現代の暮らしに欠かせないテクノロジーの便利さはそのまま活かしながら、より安心して過ごせる住まい・職場環境の実現を目指します。こうした特長から、Gabriel Technology は住宅や職場だけでなく、セラピー施設、モバイル機器、車両など、幅広い分野で活用されています。

*ここで言う「干渉」とは、電磁場が周囲の環境や機器に何らかの影響を与えることを指します。

EMFとは

EMF とは、電磁波や電磁的な場を含む、幅広い電磁環境のことを指します。私たち人間を含む生命は、もともと自然界に存在するEMF環境の中で発展してきました。自然のEMF環境は、身体のさまざまな働きを支える、目に見えない環境条件の一つと考えられています。

人間の身体も、電氣的・磁氣的・生化学的な活動によって成り立っています。たとえば、神経の働き、心臓のリズム、細胞の活動なども、体内の繊細な電氣的・生理的なプロセスと関係しています。

一方で、現代の生活では、自然由来のEMFだけでなく、人工的に発生するEMFにも日常的に囲まれています。主な発生源には、電気配線、家電製品、無線ネットワーク、モバイル通信、スマートデバイス、住宅・職場・公共空間で使われるさまざまな電気機器があります。そのため、現代の生活の中でEMFを完全に避けることは、現実的には簡単ではありません。

近年、EMFが健康や日々の快適さにどのように関係するのかについて、関心が高まり、さまざまな研究も進められています。また、EMFへの曝露に対して強い感受性を訴える人もおり、これは一般に電磁過敏症、またはEHSと呼ばれています。このような背景から、住まいや職場の快適性、心身の健やかさ、空間の質を考えるうえで、EMFは一つの重要な環境要因として注目されています。

EMFと休息・回復：睡眠と寝室環境の重要性

私たちは日々の暮らしの中で、さまざまなEMF環境に接しています。朝、電気機器を使い始めるところから、家庭内、屋外、移動中、職場、公共空間に至るまで、私たちの周囲には多くの人工的なEMFが存在しています。一日を通してこうした環境に接しているからこそ、心身を十分に休め、回復させる時間はとても大切です。特に寝室は、休息と回復を支える重要な空間といえます。

睡眠中、私たちの身体では、心身を整えるための大切な回復プロセスが進みます。日中に受けたストレスの整理、細胞の修復や再生、脳による情報の整理、記憶の定着など、睡眠は心身の回復に欠かせない時間です。だからこそ寝室は、できるだけ落ち着いた、バランスの取れた環境であることが望ましいと考えられます。

寝室では、自然なEMF環境をできるだけ保ちながら、人工的に発生するEMFについては、必要に応じて回避・低減し、適切な対策を取ることが大切です。寝室は、住まいの中でも心身の回復を支える特に重要な空間であり、健やかで快適な暮らしを支える基盤となる場所です。



私たちの身近にあるEMF

私たちの生活環境には、一般的に以下のような電磁波や電磁場が存在しています。

低周波交流電場

低周波交流電場は、コンセントにつながれたケーブルや電気機器の周囲に発生します。発生した交流電場は、室内のさまざまな場所に広がる可能性があります。

低周波交流磁場

低周波交流磁場は電流が流れることによって発生します。主な発生源には電源が入っている機器、変圧器、ポンプ、太陽光発電用インバーター、その他の電気設備などがあります。

これらの磁場は、建物の外部から室内に及ぶこともあります。一般的な壁や建材だけでは、十分な防護効果を得ることは難しいです。変電施設、高圧送電線、地下ケーブル、電力で運行する鉄道路線なども、低周波交流磁場の主な外部発生源として挙げられます。

静磁場

静磁場は、自然の地磁気に歪みを生じさせることがあります。自然の磁場は、できるだけ均一でバランスの取れた状態に保たれていることが望ましいとされています。

静磁場は、磁石や磁化された鋼材などによって発生することがあり、コンクリート天井内の鉄筋、ラジエーター、浴槽、電動モーター、路面電車、太陽光発電システムなどが要因となる場合が多いです。寝室では、スプリングマットレス、スチール製ベッドフレームの部品、電動ベッドなども磁場の発生源となることがあります。職場やオフィスにも、磁場の歪みを生じさせる要因が存在する場合があります。

静電場

静電気によって生じる静電場は、電気を通しにくい素材の表面に発生します。たとえば、家具、カーペット、ラミネート床、カーテン、プラスチック製品、布張りの家具、ぬいぐるみ、衣類などが挙げられます。静電気は日常生活の中でも身近な現象ですが、室内環境の一部として考慮されています。

電磁波および高周波放射

高周波の電磁波は、現代の生活環境のさまざまな場所に広がっています。無線周波数信号の密度や複雑さは、現在も増加し続けています。

携帯電話の電波塔、レーダー、指向性無線システムに加え、近年では多くの無線技術が家庭内にも取り入れられています。たとえば、DECT方式のコードレス電話、ベビーモニター、Wi-Fiルーターや中継器、ゲーム機、スマートメーター、ネットワーク接続型の家電製品などが挙げられます。

また、電子式の水道メーター、電力メーター、熱量メーターの普及も進んでおり、その多くは一定の間隔で信号を送信します。スマートホーム技術が今後さらに広がっていくことを考えると、こうした傾向はまだ初期段階にあると言えます。

Gabriel Technology: 測定で確認できるEMF干渉の低減

Gabriel-Tech社は長年にわたり、EMFが人体にどのように関係するのか、またGabriel TechnologyによってEMF干渉がどのように変化するのかについて、研究と検証を重ねてきました。

脳波 (EEG) 測定および心拍変動 (HRV) 測定は、ドイツのマインツ大学との共同研究の一環として実施されました。また、実施した二重盲検試験の結果は、査読付き専門学術誌『Frontiers in Neuroscience』²⁾に掲載されました。

Gabriel-Techは自社専用の研究施設を持ち、EMF曝露に関連する生体反応や、Gabriel Technologyによる低減効果について、継続的に調査・研究を行っています。同社では、神経科学研究で使われる高密度EEGシステムを導入し、脳波測定に活用しています。このシステムは最大256個の電極から脳波を記録でき、専用の解析ソフトウェアと組み合わせることで、脳活動のパターンを詳しく確認することができます。また、バッテリー駆動のため持ち運びがしやすく、さまざまな測定環境に対応できます。現在、このような先進的なEEGシステムは、世界的にも限られた施設でのみ使用されています。

Gabriel Technologyに関する数多くの研究成果は、学術専門誌への掲載や国際学会での発表を通じて公表されています。研究は、実験室環境に加え、日常生活に近い環境でも行われており、携帯電話、ベビーモニター、補聴器、自動車、睡眠エリアなど、幅広い対象が調査されています。

2) Henz D, Schöllhorn WI and Poeggeler B (2018) Mobile Phone Chips Reduce Increases in EEG Brain Activity Induced by Mobile Phone-Emitted Electromagnetic Fields. *Frontier in Neuroscience* 12:190. doi: 10.3389/fnins.2018.00190

これらの研究により、EMF曝露に対して生体が測定可能な反応を示すことが明らかになっています。また、Gabriel TechnologyによるEMF干渉の低減効果についても、科学的に確立された手法を用いて客観的に確認されています。

干渉低減の役割

すべてのEMF発生源を止めたり、取り除いたり、完全に避けたりすることは簡単ではありません。そのためGabriel Technologyでは、住まいや職場をよりバランスの取れた環境に整えることを重視しながら、EMF干渉の低減を目指します。

Gabriel Technologyは、EMF干渉によって生じる高エネルギー密度領域、いわゆる「ホットスポット」の低減をサポートする情報ベースの技術です。

Gabriel-Tech社は、日常生活のさまざまな領域に合わせた、科学的根拠に基づく製品を提供しています。各製品は明確な用途に合わせて開発されており、住宅、職場、車両などで、単独でも他のGabriel製品と組み合わせても使用できます。

EMF干渉低減の主な対象分野は以下のとおりです。

- コンピューター、プリンター、周辺機器
- 建物内の電気回路
- オフィス機器およびエンターテインメント機器
- キッチン家電
- DECT方式コードレス電話
- Wi-Fiルーター
- スマートフォンおよびモバイル機器
- 寝室および睡眠エリア
- 自動車
- 水道、水道水

電磁干渉ポテンシャル (EMIポテンシャル)

Gabriel-Techでは、複数のEMF発生源が重なり合うことで生じる干渉の状態を評価するため、EMIポテンシャルという指標を用いています。この指標により、EMF干渉の状態を測定し、Gabriel製品の使用前後でどのように変化したかを、比較・記録することができます。

測定例:

- Gabrielチップを使用しない通話時とGabrielチップによるEMF干渉低減後の通話時の比較 (図①参照)
- 寝室におけるGabrielチップ適用前後のEMF干渉状況の比較(図②参照)

これらの測定により、Gabrielチップの使用前後に生じる変化を分かりやすく可視化できます。

Gabriel TechnologyによるEMF干渉低減は、EMFを遮断・遮蔽するシールド技術とは異なります。スマートフォンやWi-Fi機器をはじめとする各種機器は、Gabrie-Techの商品を使った場合でもこれまで通り制限なく使用できるため、現代の利便性を損なうことはありません。Gabriel Technologyは、EMIポテンシャルを測定可能な形で低減し、よりバランスの取れた電磁環境づくりを支援します。

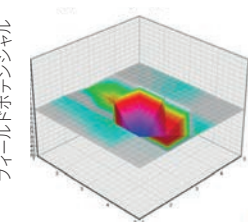
Gabriel Technologyの効果は、EMIポテンシャルのラボ測定によって確認することができます。

① EMIポテンシャル

通話 Gabrielチップなし

最大ポテンシャル: $42.81 \mu\text{W}/\text{m}^2$

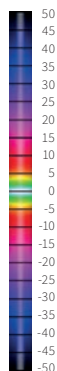
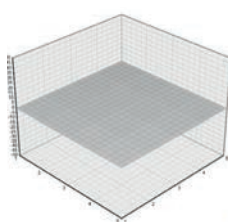
フィールドポテンシャル



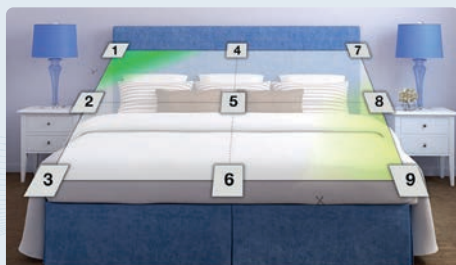
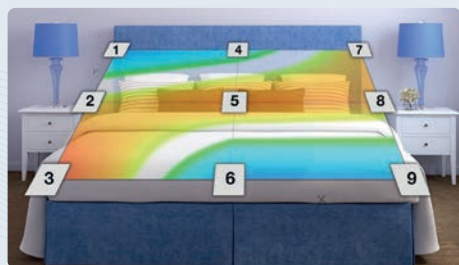
通話 Gabrielチップ使用

最大ポテンシャル: $0.20 \mu\text{W}/\text{m}^2$ (nT)

フィールドポテンシャル



② ベッド - 静磁場 (nT)



静磁場:
地磁気からの偏差/
建築生物学参照値 (nT)

許容範囲

やや高い

高い

非常に高い



EMF曝露に関する研究とGabriel-Tech専用測定ラボ

Gabriel-Techが自社の研究所で実施した研究では、EMF曝露後に、脳内で強いストレス反応に関連するとされている変化が確認されています。また、さまざまな周波数帯や脳の深部領域で、活動の変化も観察されています。血液および尿の分析では、炎症マーカーの上昇も示されています。さらにHRV測定からは、EMF曝露が身体の生理的な働きに関係し、身体的・認知的パフォーマンスの悪化につながる事が確認されました。

これらの変化は、EUなどで定められている現行の法定基準値を大きく下回る、日常的な曝露レベルにおいても観察されています。

最近の研究では、携帯電話基地局の近隣に住む30歳未満の人々において、血液値の変化が報告されています。Laldinpuiiらの報告³によれば、基地局から半径60メートル以内に住んでいる場合、白血球数が最大24%増加したとされています。また、携帯電話を1日4～6時間使用する人々のうち、50%以上で白血球数が正常基準範囲を上回り、特に単球に変化が見られたと示されています。

2026年4月14日、学術誌『Cell』に電磁場放射に反応する分子センサーを特定した査読済み研究が掲載されています⁴。同研究では、ミトコンドリアが細胞のエネルギー供給を担うだけでなく、外部からの電磁干渉信号を受け取る可能性について述べられています。このプロセスには、カルシウム振動が重要に関与していると考えられています。カルシウム振動は、対抗調節や炎症反応、神経機能など、さまざまな生体プロセスと関係しているということが分かっています。

さらに同研究では、電位依存性イオンチャネル (VGIC) におけるS4電圧センサーの役割にも触れられており、これらが人工的なEMFに反応する可能性について述べられています。これは、5Gのようなパルス状のEMFが、熱によるものではない生物学的影響を引き起こし得る細胞レベルのメカニズムの一つとして示唆されています。

Gabriel-Tech社のアプローチ

現行の法定基準値は、主に既存の曝露しきい値に基づいています。しかしGabriel-Techは、これらの基準値には、今日の複雑なEMF環境が十分に反映しきれていないと考えています。

新技術の普及、5Gネットワークの拡大、スマートホーム、スマートウォッチ、スマートメーター、各種接続型デバイスにより、日常的なEMF曝露はますます複雑化しています。室内環境汚染物質の多くは住宅設計によって低減できますが、デジタル技術、モバイル通信、近隣環境、職場システムから生じるEMFは、個人で管理することが難しい場合も少なくありません。

多くの人にとって、EMFへの曝露はもはや個人の選択だけでは避けられず、24時間、日々の暮らしに関わるものとなっています。

だからこそ、まずはEMF環境を見直すことが大切です。

3) Laldinpuii, et al. (2026). Effects of exposure to nearby mobile phone base stations and mobile phone usage on human blood parameters. Electromagnetic Biology and Medicine, 1–20. Advance online publication.

4) Kim, J., et al. (2026). Electromagnetic field-inducible in vivo gene switch for remote spatiotemporal control of gene expression. Cell, 189(11), 3465–3480.e23.

Gabriel-Techの研究実績

Gabriel-Techは、これまで以下のような多様な研究を重ねてきました:

- 携帯電話曝露を伴うEEG研究
- 4G/LTEと5Gの比較研究
- 5Gスマートフォン通話に関する研究
- 免疫系マーカーに関する研究
- ミトコンドリア生体エネルギーに関する研究
- 睡眠エリアにおけるEEG研究
- 自動車に関する研究
- 職場およびセラピー環境での測定
- Gabriel干渉低減効果の長期測定

これらの研究成果は、Gabriel Technologyの信頼性と、EMF干渉低減への応用を支える科学的基盤となっています。

これまでの研究結果の一部をご紹介します。



ラボでEEG測定を行うDiana Henz博士。

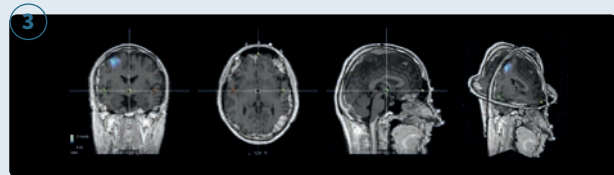
研究事例1: スマートフォン通話時のEMIポテンシャルとEEG活動

Gabriel-Tech研究ラボでは、以下のような異なる曝露条件のもとで測定を行い、その結果を比較・評価しました。

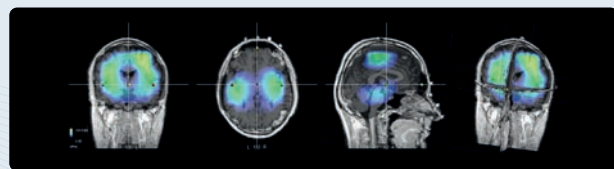
- ・ スマートフォンを使用しない事前測定条件
- ・ Gabrielチップを使用しないスマートフォン通話時
- ・ Gabrielチップを使用したスマートフォン通話時

その結果、Gabrielチップを使用しない状態と、Gabrielチップを使用した状態との間で、EMIポテンシャルおよびEEG活動に測定可能な違いが確認されています。(EEG測定結果 図③参照)

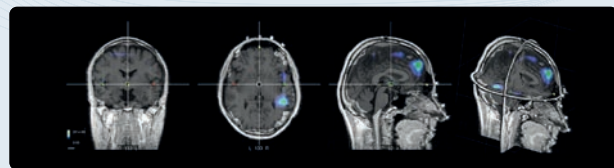
スマートフォン通話



事前測定 (スマートフォンなし)



スマートフォン通話 (Gabrielチップなし)



スマートフォン通話 (Gabrielチップ使用)

このカラースケールは、脳の活性化レベルを表しています。赤は脳の活性化が非常に強いことを、青は非常に低いことを示します。色のついていない部分は、脳の活性化が見られない領域を示しています。

研究事例2: 4G・5Gおよび免疫系への影響

Gabriel-Techは、4G/LTE環境と5G環境における曝露を比較するEEG研究を実施しました。(図④参照) さらに、5Gスマートフォン通話中の脳活動について、Gabriel Technologyによる影響の違いも調査しています。(図⑤参照)

これらの結果から、5G曝露が、サイトカイン産生を通じて免疫調節に関わる脳領域に影響を及ぼす可能性が示唆されました。サイトカイン受容体は、電気的な神経インパルスによって調節されるため、これらの脳領域に作用する外部からのEMF曝露の影響を受ける可能性があります。

これは免疫系機能不全の要因がウイルスや細菌などの病原体だけに限られないという可能性を示すものです。また、特定の周波数が神経免疫学的反応の一部に関与する可能性も考えられます。

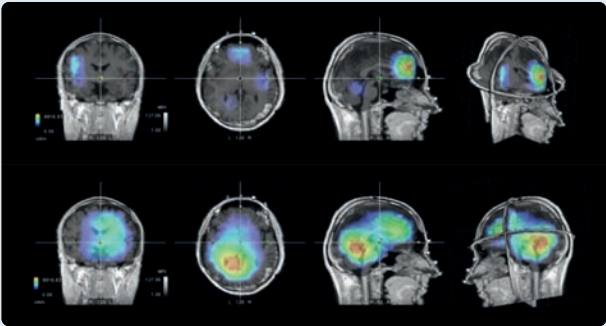
EMFが身体に及ぼす可能性のある影響

この研究では、EMFが身体に及ぼす可能性のある影響として、以下のような点が取り上げられています。

- 免疫系の調節機能への影響
- 神経炎症 (ニューロンや脳組織における炎症)
- 神経変性プロセスへの関与の可能性
- 認知症、アルツハイマー病、パーキンソン病、多発性硬化症、ALSなどの疾患との関連可能性
- 自己免疫プロセスとの関連可能性。例えば免疫系が自己組織を攻撃したり、変化した細胞を十分に排除できなくなったりする状態が含まれます。

尚、これらのテーマについては、慎重な科学的解釈が必要です。

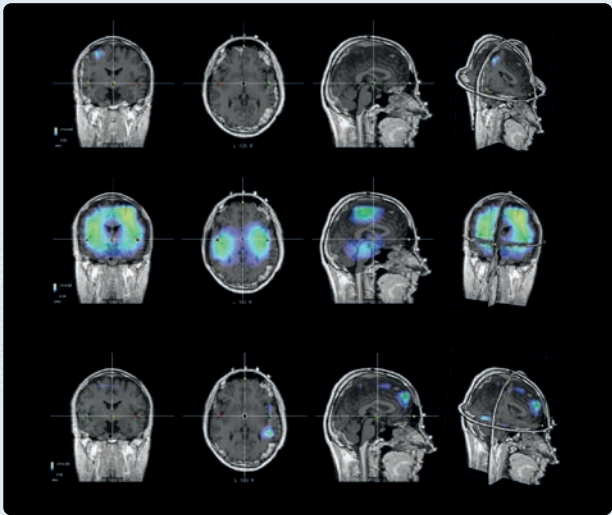
④ 4G (LTE) ／5GエリアのEEG差



4Gエリア

5Gエリア

⑤ 5Gスマートフォン通話中のEEG測定：
Gabriel 5Gチップの有無による比較



比較基準条件

iPhone 17 Pro Max

iPhone 17 Pro Max+
Gabriel 5Gチップ

このカラースケールは、脳の活性化レベルを表しています。赤は脳の活性化が非常に強いことを、青は非常に低いことを示します。色のついていない部分は、脳の活性化が見られない領域を示しています。

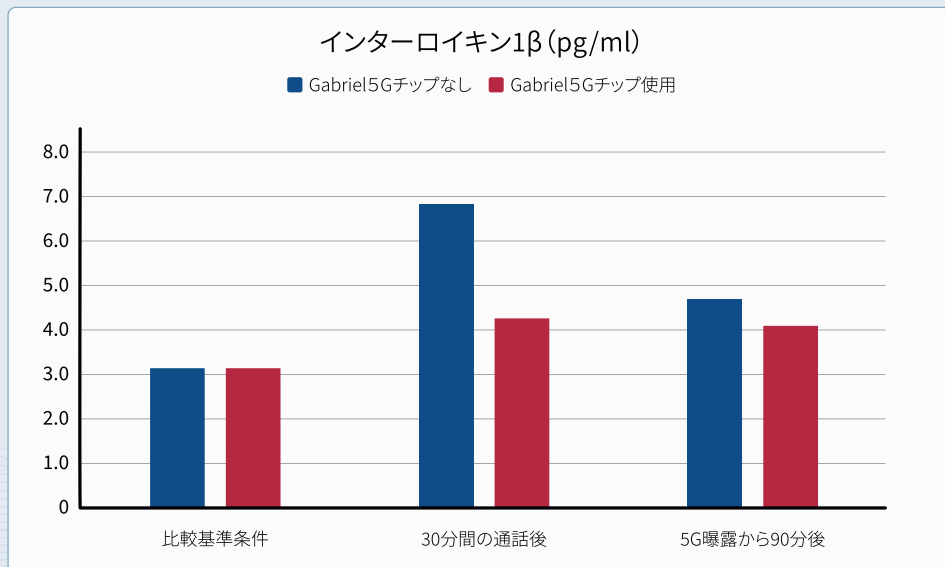
研究事例3: 血液およびミトコンドリアの測定

Gabriel-Techは、免疫反応に関連する生物学的マーカーとして、インターロイキン1 β なども測定・解析しました。

iPhone 12を使用した30分間の5G通話後には、免疫反応を示す変化が観察されています。一方、Gabriel-Tech 5Gチップを使用した場合、5G通話後の免疫反応が有意に低減された事が報告されています。(図⑥参照)

⑥ スマートフォン通話がインターロイキン1 β に及ぼす影響

血液検査

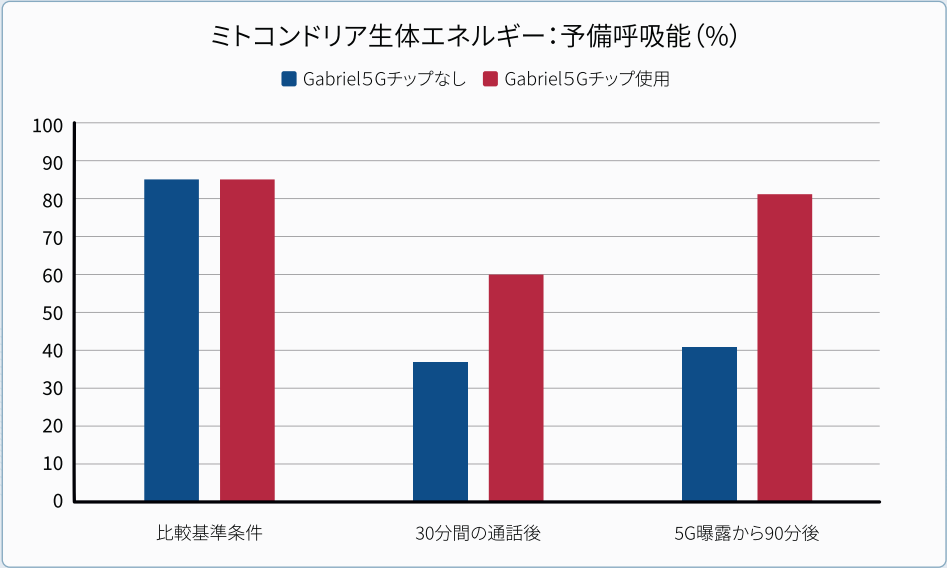


5G通話による免疫反応の指標：インターロイキン-1 β : iPhone 12による30分間の5G通話後には、免疫反応が観察されました。一方、Gabriel-Tech 5Gチップを使用した場合、5G通話後の免疫反応は有意に低減されました。

さらに、ミトコンドリアの生体エネルギーについても調査が行われました。30分間の5G通話後には、予備呼吸能の割合が有意に低下し、90分間の休憩後も低下が続きました。一方、Gabriel-Tech 5Gチップを使用した場合、この低下は有意に抑えられ、90分間の回復期間後には、予備呼吸能が比較基準条件と同程度の水準まで戻りました。(図⑦参照)

⑦ ミトコンドリア生体エネルギーへの影響：予備呼吸能 (%)

ミトコンドリア生体エネルギー



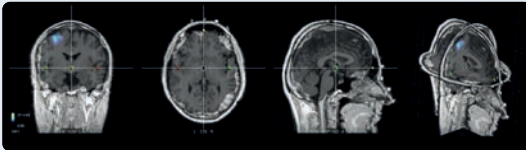
30分間の5G通話後、予備呼吸能は有意に低下し、90分間の休憩後も低下が続きました。Gabriel-Tech 5Gチップを適用した場合、この低下は有意に抑えられ、休憩後には基準条件と同程度まで回復しました。

研究事例4: 寝室におけるEEG研究

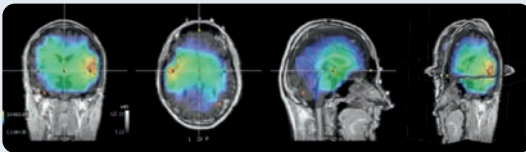
Gabriel-Techは、EMFの影響が確認された睡眠エリアにおいて、Gabrielベッドチップ適用前後のEEG測定も実施しています。

その結果、Gabrielベッドチップの使用前後で、EEG活動に測定可能な違いが確認されています。これらの結果は、寝室がEMF評価と環境改善において重要な場所であることを示しています。(図⑧参照)

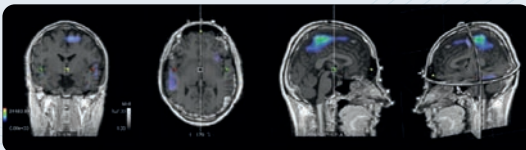
⑧ 寝室におけるEEG研究



比較基準条件



EMFの影響が確認された寝室でのEEG



Gabrielベッドチップ適用後のEMFの影響が確認された寝室でのEEG

このカラースケールは、脳の活性化レベルを表しています。赤は脳の活性化が非常に強いことを、青は非常に低いことを示します。色のついていない部分は、脳の活性化が見られない領域を示しています。

Gabriel Technologyに関する科学的研究の概要

Gabriel Technologyは、モバイル通信、Bluetooth機器、車両、セラピー機器、スポーツ用途、5G曝露など、日常生活で想定される幅広い使用環境を対象に、科学的研究を通じて評価されています。一部の研究成果は、査読付き学術誌や学会発表論文集に掲載されており、Gabriel-Techの測定に基づくアプローチを科学的に裏付けるものとなっています。

- 2017** Gabrielチップを評価する無作為化・対照・二重盲検試験*
- 2018** Audi A6 QuattroにおけるGabriel Technologyの効果*
- 2019** iPhone X、Bluetooth AirPods、有線ヘッドセットにおける効果*
- 2019** Colorbox12セラピー機器における効果*
- 2020** スポーツ分野での応用*
- 2020** 4Gおよび5G曝露下での効果
- 2020** Samsung Galaxy S10 5Gを使用した5G曝露が脳活動に及ぼす影響
- 2021** iPhone 12を使用した5G曝露が脳活動に及ぼす影響
- 2021** 5G曝露下におけるGabriel-Tech空気清浄機の脳活動への効果
- 2022** 4時間の運転シミュレーション中の5G曝露下での効果*
- 2022** 5G曝露が脳活動、免疫系、ミトコンドリア生体エネルギーに及ぼす影響*
- 2023** 5G曝露下におけるAmpliField miniの脳活動への効果
- 2024** 5G曝露下におけるGabriel-Tech Frequency Cardの脳活動への効果
- 2024** 電気自動車におけるGabriel Technologyの効果*
- 2025** Gabriel Chip 5Gを用いたモバイル通信の効果
- 2025** Gabriel 24金メッキFrequency Cardを用いたモバイル通信の効果
- 2026** Gabriel Chip 5GおよびGabriel 24金メッキFrequency Cardを用いたモバイル通信の効果
- 2026** Gabriel Technologyを搭載した電気自動車内での曝露の効果

* 査読付き国際学術誌および学会発表論文集に掲載。



各研究の詳細は、当社のホームページでご覧いただけます。
www.gabriel-technologie.com/forschung

製品・サービスのご案内



Gabriel-Techの**モバイル通信**向け製品は、携帯電話やスマートフォンをはじめ、コードレス電話、ベビーモニター、ノートパソコン、補聴器、ヘッドホン、Bluetooth機器、Wi-Fi機器など、幅広い機器に対応しています。



Gabriel-Techの**建物**向け製品は、ご自宅やオフィスにおけるEMF干渉の低減をサポートします。ベッド、分電盤、ケーブル、窓など、設置場所に応じた専用チップをご用意しています。



ウェアラブル製品や携帯用アクセサリを含む**周波数製品**シリーズは、洗練されたデザインと確かな機能性を兼ね備えた、Gabriel-TechのEMF干渉低減ソリューションです。日常に取り入れやすい、スタイリッシュな選択肢を提供します。



EMFは、**水道管や飲料水**にも影響を及ぼす可能性があります。Gabriel-Techは、水道水の物理的特性を測定可能な形で整えることをサポートするソリューションを提供しています。



自動車の電動化が進むなか、車内におけるEMF曝露は増加しています。Gabriel-Techの専用製品は、EMF干渉を低減し、ドライバーや同乗者の脳活動をよりバランスの取れた状態へ導くことをサポートするよう設計されています。快適性や心身の健やかさ、そして交通安全への貢献を目指します。



Gabriel-Tech製品の詳細はこちら：

<https://media.gabriel-technologie.com/produktvideos>



Gabriel-Tech社では欧州に限って、住宅や職場など、人が長い時間過ごす空間におけるEMF干渉を低減するための専門コンサルティングも提供しています。TÜV認証¹を受けた測定・分析・評価に基づき、EMF干渉の回避・低減を組み合わせた最適な改善策を提案します。これらの取り組みを通じて、現代のテクノロジーの利便性を損なうことなく、より快適でバランスの取れた生活環境づくりを支援します。

特に睡眠エリアは、心身の回復と健康に深く関わるため、評価における重要な対象となります。最初のステップとして、高品質で規格に準拠した測定技術と専用ソフトウェアを用い、測定結果の評価・記録を含む技術的な分析を行います。

EMF環境コンサルティングでは、EMFの状態を可視化し、測定値として分かりやすく示します。これにより、現在のEMF環境の状態を把握しやすくなります。各種EMFは、ベッド上に設定した細かな測定グリッドに沿って測定し、建築生物学の基準値およびGabriel-Techの参照基準に基づいて評価します。

測定結果に基づき、環境に応じた適切な改善策を計画・実施することができます。多くの場合、電気機器等の使い方を少し意識するだけでも、EMF環境の改善につながります。例えば、使用していない機器や無線信号をオフにする、携帯電話をベッド

サイドテーブルで充電しない、といった日常的な工夫も有効です。

また、寝室の状況によっては、自動切替システムを活用し、夜間にEMFを発生させる電気回路を停止できる場合もあります。そうする事により、夜間に電圧のない状態をつくり出すことが可能になります。

1) TÜVは、ドイツの品質保証基準機関です。

EMF環境コンサルティングの4つのステップ

ステップ1： 現地測定

初回コンサルティングの後、EMF測定を実施します。

Gabriel-Techの測定参照値は、以下に基づいています。

- IBN建築生物学基準
- Gabriel-Tech社内基準

ステップ2： 現地分析および改善提案

コンサルタントがEMF環境の状態を評価し、お客様との綿密な対話を通じて、それぞれの環境に応じた改善提案を行います。

ステップ3： 現地での実施

お客様と相談のうえ、改善提案を実施します。

ステップ4： レポート

EMFをカラーグラフィックで分かりやすく示した詳細なレポートを作成します。

まとめ

現代の暮らしには、電気設備、無線ネットワーク、モバイル通信、スマートデバイスなど、さまざまなテクノロジーが欠かせません。これらの機器や設備からは、EMFが発生しています。Gabriel-Tech社は、日常環境におけるEMF干渉を評価・低減するために、測定に基づく独自のアプローチを開発してきました。

Gabriel-Techは、専門的な測定技術、EEG研究、HRV分析、ラボ試験を通じて、EMF干渉が身体に及ぼし得る影響を検証しています。また、測定結果をもとに、Gabriel Technologyを活用してよりバランスの取れた環境を整えるための具体的なアドバイスを行うこともできます。

Gabriel Technologyは、機器を遮蔽したり、通信や機能を妨げたりするものではありません。モバイル機器や家電などのテクノロジーの利便性をそのまま活かしながら、EMF干渉を低減するよう設計されています。同社の品質管理システムはISO 9001:2015に基づきTÜV認証を受けており、その技術は複数の研究および実用事例を通じて検証されています。

Gabriel-Tech品質基準

検証可能な品質基準

Gabriel-Techの品質管理システムは、ISO 9001:2015に基づきTÜV認証を受けています。

認証範囲には、以下が含まれます。

- EMF干渉を測定可能な形で低減する技術および製品の開発、製造、販売
- 測定、分析、可視化、コンサルティングに関するサービス
- 地磁気、電場・磁場、電磁波、およびそれらの複合的相互作用の評価
- EMIポテンシャルの測定
- 適用された技術を検証するための標準化されたラボ測定手順の使用

この認証は、品質、測定の透明性、再現可能なプロセスに対するGabriel-Techの取り組みを支えるものです。



EMF環境が整った、 より快適な暮らしを



Gabriel-Techオンラインショップ

JS Global GmbH (日本語対応)

Hof Kraussenberg 3
36304 Alsfeld
Germany (ドイツ)
www.jsglobal.de
info@jsglobal.de

Gabriel-Tech GmbH

Siemensstraße 17
65779 Kelkheim (Taunus)
Germany (ドイツ)
www.gabriel-technologie.com
info@gabriel-technologie.com



ISO 9001
Zertifiziertes
Qualitätsmanagementsystem
www.tuev-sued.de/ims-zert

Gabriel-Technologie
MADE IN GERMANY 

© Gabriel-Tech (2026年)

GT-MUW-JP | 2026-07

表紙、1ページ、3ページの画像はAIを使用して生成されたものです。

法的上Gabriel Technologyが医薬品でも医療機器でもないことを明記します。

Gabriel-Techの商品は、医療行為、診断ツール、または治療機器としてではなく、EMF干渉低減および環境最適化のための技術として紹介しております。